

資料室だより 141

ロベルト（ロベール F.M.）・ヴリーゲン氏寄贈（1）

ロベルト・ヴリーゲン著

「ポリフォニーに見る歓びー 9 世紀より 16 世紀までの多声音楽史」（音楽の友社）

この本は資料室が所蔵している多声音楽史の重要な参考書です。譜例集もあり、出版年は古いですが今でも十分に活用できます。私事ですが私は高校時代、この本で勉強いたしました。日本語で読めるルネサンス合唱音楽に関する本がほとんどなかったのです。音楽史の本は多々ありましたが、これはルネサンス音楽つまり多声音楽最盛期に特化した本です。私がこの本を購入したころ、ヴリーゲン氏はエリザベト音大の教授でいらしたと記憶していますが Palestrina Institute, Pro Musica Institute を設立されてルネサンス音楽の演奏と研究を促進されました。その後、大阪芸術大学で教鞭をとられ、ベルギーフランドル交流センターを設立されて 1993 年まで館長を務められ、ルネサンス音楽研究に多大な貢献をされました。

2005 年に帰天され、氏の大切な蔵書が一部、聖グレゴリオの家に寄贈されました。ルネサンス音楽だけではなく、晩年はグレゴリオ聖歌の研究も熱心にされていたので聖歌関係の資料も多数いただきました。ハッチハウス内研究室に置いて誰でも閲覧できるようにしておりますがここで少しずつ資料紹介していきます。

蔵書は大きく分けて、以下ようになります。

1. グレゴリオ聖歌関係（楽譜および文献）
2. ルネサンス音楽史、音楽理論関係書籍
3. 定量記譜法時代の楽譜叢書（学問的校訂版）
4. 定量記譜法時代の実用版楽譜
5. 録音資料（量的には少ないですが貴重な LP-F.Peeters の自作自演の演奏など）

大変光栄な寄贈です。私自身の力では収集できなかったオランダの出版物なども多く含まれておりますので個性的な蔵書構成ができます。ただし、グレゴリオの蔵書印は押さずに、そのままの形で書架に置きます。どうぞ大切にご利用ください。

（杉本ゆり 記）